

IMF、世界景気の大規模悪化を予想

ポイント① 世界恐慌以来の深い景気後退

4月14日発表のIMF(国際通貨基金)の世界経済見通しによれば、世界の実質GDP(国内総生産)成長率は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で2020年には-3.0%に急落すると予測されています。2009年を下回り、1920年代末～30年代の世界恐慌以来、最も深い景気後退となる見通しです。

欧米諸国で感染が拡大し、人々の行動を制限する措置が行なわれていることから、先進国の景気後退が特に深くなると予想されています。新興・発展途上国の落ち込みは相対的に小幅の見込みですが、中国以外で感染拡大が続クリスクがある上、貿易量や国際的資金フローの減退を通じて、先進国の景気後退の影響を受けると見られます。

ポイント② 2021年には反動でプラス成長

2020年後半に感染拡大が鈍り、行動制限措置が緩和されることを前提に、2021年には世界経済成長率は+5.8%へ反発すると予想されています。

ただ、それでも実質GDPの水準は1月時点の想定まで戻らず、IMFは従来想定に比べて2020、21年の合計で約9兆米ドルの需要が失われるとしています。

ポイント③ 新興国経済主導の景気回復

先進国では2021年のプラス成長の幅は2020年のマイナス幅を下回り、実質GDPが2019年の水準にまで戻らないものの、新興国の成長が世界経済の回復をけん引する姿をIMFは描いています。

こうした世界経済の回復を実現するには、感染抑止策だけでなく、貿易や国際的資金フローの再活性化などを含めた幅広い国際協調が必要であり、その動向が注目されます。

図1：国・地域別実質GDP成長率見通し

	(前年比、%)		
	2019	2020	2021
世界	2.9 (0.0)	-3.0 (-6.3)	5.8 (2.4)
先進国	1.7 (0.0)	-6.1 (-7.7)	4.5 (2.9)
米国	2.3 (0.0)	-5.9 (-7.9)	4.7 (3.0)
ユーロ圏	1.2 (0.0)	-7.5 (-8.8)	4.7 (3.3)
日本	0.7 (-0.3)	-5.2 (-5.9)	3.0 (2.5)
新興・発展途上国	3.7 (0.0)	-1.0 (-5.4)	6.6 (2.0)
中国	6.1 (0.0)	1.2 (-4.8)	9.2 (3.4)
インド	4.2 (-0.6)	1.9 (-3.9)	7.4 (0.9)

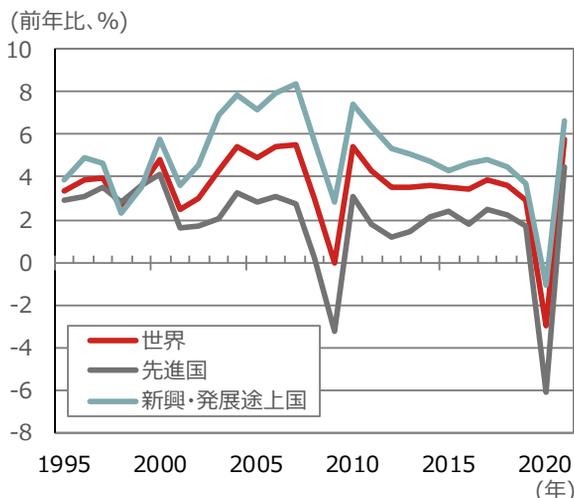
(注) 2020年以降はIMFによる予測

(注) ()内は2020年1月時点見通しからの修正幅

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

図2：世界の実質GDP成長率

期間：1995年～2021年、年次



(注) 2020年以降はIMFによる予測

(出所) IMFデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

4月17日
4月29日

中国GDP (1-3月期)
米国GDP (1-3月期、速報
値)、金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。